

## ウクライナ侵略をどう終わらせるか / 米国は「二つの弱点」ただし、「国連憲章守れ」で全世界が団結を / 志位議長が主張

(しんぶん「赤旗」 2024年02月25日付)

日本共産党の志位和夫議長は24日、長野県上田市で開かれたつどいで、ロシアによるウクライナ侵略から2年にあたり、同戦争をめぐる米国が「二つの弱点」をあらためる必要性を説きました。

つどいでは会場から「ロシアのウクライナ侵攻2年となり、即時停戦の声をどう思うか。この戦争を終わらせることはできるのか」との質問がありました。

志位氏は、イスラエルのパレスチナ自治区ガザ攻撃と違い、ロシアがあれだけ侵略している状況のなかで「即時停戦」を主張するわけにはいかないと指摘。「『国連憲章守れ』の一点で、全世界がロシアの蛮行を包囲することが必要」「戦争を終わらせるには世界が団結することです」と語りました。

その上で志位氏は、「現状でそうした団結がつくれているとはいえない」として米国の対応の弱点を指摘。米国が「民主主義か専制主義か」という価値観で分断してきたこと、ロシアの侵略を批判する一方でイスラエルのガザ攻撃に正面から批判せず事実上擁護してきた「二重基準」をとっていること、2つの弱点があると指摘。「『国連憲章を守れ』の一点で全世界が団結するうえで、この2点をあらためなければいけない。日本政府も米国追従の姿勢をただす必要があることを強くいいたい」と語りました。

**志位議長の関連分部の発言は全文はつぎのとおりです。**

出所：<https://www.youtube.com/watch?v=dVcQ8bamgJk>

あの、ウクライナ侵略の問題、2年ですね。それで、ええ、出口が見えません。

どうやって終わらせるかというご質問です。これはね、停戦、即時停戦というのは、ウクライナについて言いますと、私たちは、その主張(即時撤退という私たちの主張)を変えるわけにはいかないと現時点では考えています。ガザの方は、もう、即時停戦という言い方をしますけれども、ウクライナをいま停戦ということになりますと、今、現にロシアがあれだけ侵略しているわけですね。そういう状況をウクライナの人たちに、これを認めろということにもなりますので、なかなか即時停戦ということは今言えないという状況なんです。じゃあどうするかということなんですが、これはね、国連憲章を守れという一点で全世界が団結してロシアの暴挙を包囲する、これがいま、いいです。で、これをやるうえでね、この問題の一番の悪の根源が、プーチン政権にあるということは明らかです。ずっと違反してきました。ただね、アメリカの側の弱点も、私言わなければならない。二つほどある。一つはですね、この戦争をバイデン大統領は民主主義対専制主義の戦いだと、つまり体制間の戦いだと定義づけた。そうしますとね、ひいてしまう国が、途上国など、新興国で多いわけです。民主主義か、専制主義かという特定の価値観が問われてるんじゃない。国連憲章を守るか、守らないかですね。そこで団結しなければならないときに、価値観での分断を押し付けるべきではない。これ(が)一点です。もう一つは、こういう問題なんです。アメリカは、ロシアの侵略は批判するけれども、なぜ、イスラエルのガザに対する攻撃を正面から批判しないのか、事実上応援するのか、ダブルスタンダードじゃないかという問題です。ダブルスタンダードをアメリカがやっていたら、やっぱり、世界の支持は得られませんよね。スタンダードは一つでなくちゃいけない。ウクライナでもガザでも、国連憲章と国際法を守れという一点で団結しなきゃいけないところを、ダブルスタンダードをやっていたら、世界の団結は得られません。やっぱりこの戦争は終わらせなきゃいけないんだけれども、まずい終わらせ方をするわけにはいかないんです。やっぱり道理の通った形で、つまり、ロシア軍を撤退させて終わらせなくちゃいけない。その考えで、世界中が団結するしかない。そうやるためには、アメリカの側も、そして、それに事実上一緒になってやっている日本の側も、いま言った二つの点を改めなくちゃいけないということを強く言いたいと思います。(了)